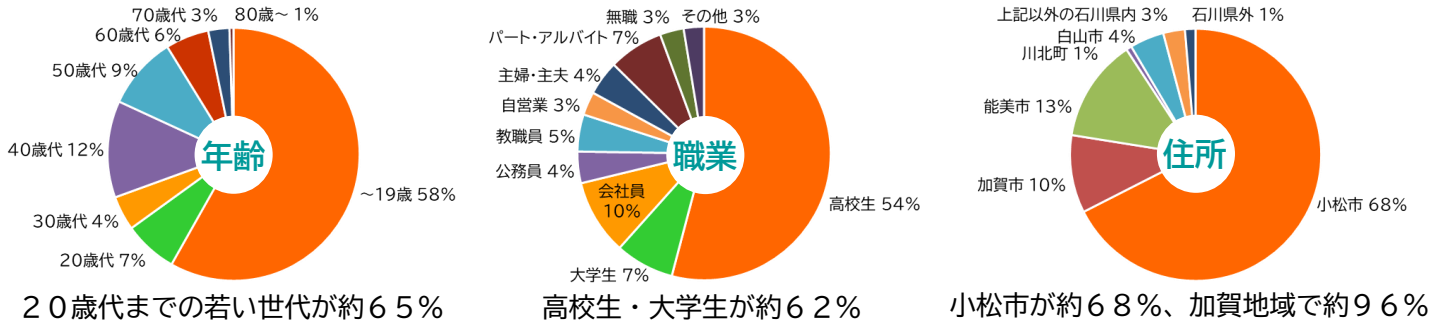
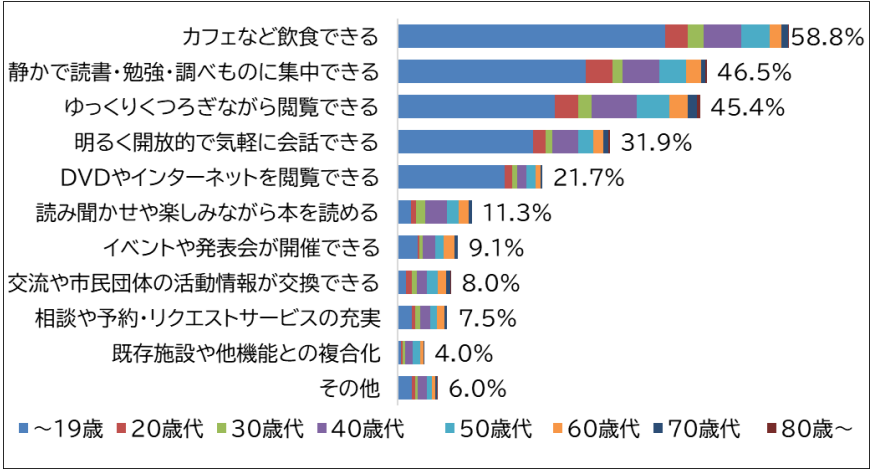


1 市民の意見・ニーズの把握・整理

(1) アンケート調査（令和3年9月1日～10月31日、回答総数1,543名）



① あると良い機能やサービス（複数回答）



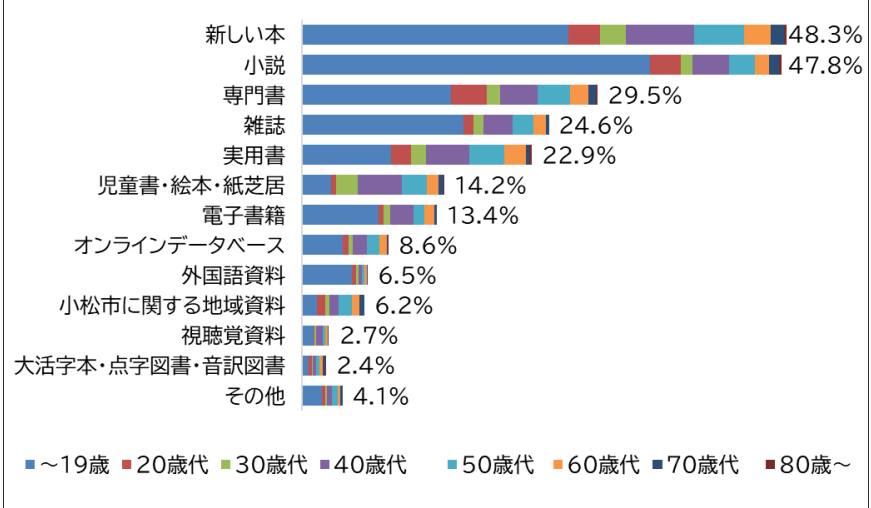
○カフェなどの飲食スペースが約60%。

○次いで、静かで読書・勉強・調べものに集中できる、ゆっくりとくつろぎながら閲覧できるが約45%。

○既存施設や多機能との複合化は、具体的に学習センターや公民館の生涯学習施設、文化ホールや博物館、美術館、科学館などの文化・交流施設、児童館・子育てセンター、商業施設・スポーツ施設など多岐にわたる。

○その他は、コロナ禍でも安心して利用できる、シェアオフィスなど。

② 充実してほしい資料（複数回答）

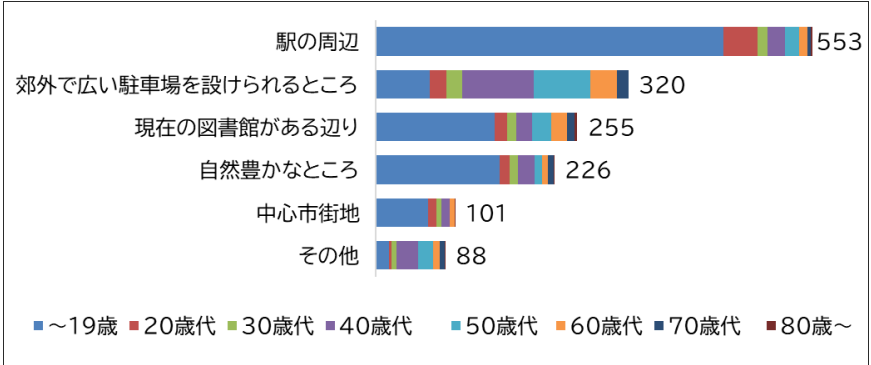


○新しい本や小説が約50%。

○次いで、専門書、雑誌、実用書の充実。

○その他は、歴史的な評価の高い内外の古典資料、絶版になった書籍、問題集、漫画など。

③ 立地場所



○20歳未満及び20歳代では、駅の周辺の割合が高い。

○30歳代以降では、郊外で広い駐車場を設けられるところの割合が高い。

○その他は、駐車場が豊富で中高生が通える範囲や、中山間地域の人も行きやすい場所、大学などと一体あるいは隣接するとよいなど。

(2) 各種団体等との意見交換会（令和3年9月～令和4年2月、12回・延べ132名）

① 主な意見（アンケート調査「未来型図書館について思っていること（自由記載）」を含む）

A) 役割

読書活動推進	○子どもたちが本に興味を持ってくれる身近な図書館であってほしい。 ○図書館という括りが、本を借りる、資料で何か調べる場所という固定観念になってしまっている。 ○学校図書館との連携強化のため、学校図書館支援センターを設置してほしい。 ○学校図書館には蔵書、司書も配置されており、子ども日頃の読書活動は十分行われている。
知の拠点	○市民の未知の知識を広げ、文化レベルが向上するよう、知の宝庫となってほしい。 ○ジェンダーや貧富の区別がなく、誰もが知識を得られることが大切。 ○知の集いの場所という役割を持つもので、小松市の知的財産がまとめて展示されるとよい。 ○知の拠点という定義は古く、知の拠点を膨らませて考えるべき。
交流	○地域の人と人の交流の場として充実してほしい。 ○3世代が一緒に楽しく1日を過ごせる施設であってほしい。 ○考えを共有できる、認め合える、ゆるく曖昧な感じで、目的がなくても集える場があるとよい。 ○人と人が行き交う場、様々なものが交差する場、絶えず変化していくような場であってほしい。 ○人が集まる「場」をつくる、そこに必要な本があるという考え方で図書館を作っていくことが大事。 ○人やモノ・ことがらなどいろいろな出会いがあり、まちづくりの拠点となってほしい。
憩いの場	○訪れやすく、いろいろな目的で気軽に利用でき、くつろげる憩いの場。 ○子どもや高齢者、障がいのある方、外国籍の方など誰もが気軽に利用しやすい場。
学び	○生涯学習や大学図書館の役割も担ってほしい。 ○文化活動や子育てセミナー、親も学べる場所になってほしい。 ○学生だけでなく企業人が資格取得などで活用できる場所として利用できるとよい。 ○イングリッシュカフェや、手話カフェなど、一人一人の学びの場づくりに。
生きがいづくり	○何歳になっても学びができる場所に。 ○これまでの図書館と変わってきている。高齢化時代にどう対応していくかという点も大事。
文化・価値の創出	○人が集い新たな可能性が膨らむ、時代に役に立つ図書館に。 ○文化や新たなコミュニティの拠点として地域に親しまれるものに。 ○面白いものに出会い、みんなが集い新しいチャレンジができる場に。 ○農業とのコラボ（朝市や館内カフェでの無農薬野菜の使用）など、図書館の間口が広がるとよい。 ○障がいのある方が作ったお菓子やパンなどを提供でき、働く場にもなるとよい。 ○レンタルの貸本箱や、自分史を書いて販売できる機会があるとよい。
居場所づくり	○家庭や学校以外で、学生が自由に行ける心の拠り所に。 ○ひきこもりなど社会参加が難しい人のまちの居場所としての役割も。
つながりの場	○子どもたちの横のつながりが生まれる場に。 ○高齢者と子どもたちがふれあい、経験や知識を伝承していく場所という一面を持たせてほしい。 ○世代を超えて同じ趣味のある人が出会う場所、共有できる場所があるとつながりが生まれる。 ○まちじゅうに本と触れあえる場所が必要で、それらをつなぐ役割も。
防災	○災害など非常時の拠点や情報発信の場に

B) 機能・サービス

貸出・返却	○公立小松大学の附属図書館との蔵書の共有や相互貸借システムの導入など機能連携を。 ○他の自治体の公共図書館との連携、図書カードの共通化 ○図書館に行けない人のために本をインターネットで申込し、自宅に届くサービスがあるとよい。 ○返却場所（ボックス）を市内数カ所に設置し利便性を高めてほしい。
I C T活用	○図書インデックスがホームページで閲覧できるように。バーチャル図書館の機能があると便利。 ○タブレット端末やパソコンを設置し、電子書籍や論文が読めるとよい。 ○図書館の利用カードを電子化してほしい。 ○おすすめ本の紹介も行えるA Iのインフォメーション機能を。 ○子どもが生まれたらデジタルの図書カードをプレゼントするとよい。
行事・イベント	○普段、本を読まない方も気軽に立ち寄れるようなイベントがあるとよい。 ○講座やワークショップ、体験教室を増やしてほしい。 ○他の図書館での取り組み（講座や図書の選書など）も導入するとよい。
広報・情報発信	○本の要約情報を発信し、興味を持たせる工夫を。 ○市民がおすすめ本を紹介できるように。 ○子育てや住宅などの生活に関する情報や、スポーツ・趣味等で活動している団体・サークルの紹介。
ボランティア支援	○読み聞かせなどのボランティアグループの活動や人材育成支援の充実。
その他	○様々なことを図書館に詰め込みすぎると失敗できなくなる。今の図書館で早い段階で試せるとよい。

C) 蔵書

蔵書数・蔵書の選定	○蔵書数を増やしてほしい。多種多様なたくさんの本を揃えてほしい。 ○学校での調べ学習に対応できるように、同じ本を複数揃えてほしい。 ○どのような形で購入される本が決定されているのかをもっと見直しすることが大事。 ○アニメに特化した図書館もあり、新しいニーズに対応していくことで利用が増えるのではないかな。
専門書・実用書	○大学での調べものに必要な医学書や看護の専門書を充実してほしい。 ○ビジネス書や図鑑・写真集を多く置いてほしい。
郷土資料	○石川県や小松市の歴史・文化を学べるように歴史の本を増やしてほしい。 ○郷土の偉人に関するコレクション資料を充実してほしい。 ○現市立図書館は郷土資料が豊富であり、郷土資料館的な形になるとよい。
小説・雑誌等	○若い人に人気のあるライトノベルなどの充実を。 ○人気の漫画や雑誌の充実も。
視聴覚資料	○D V DやC Dを充実してほしい。
データベース	○過去の文献の蓄積と活用が重要。 ○新聞の種類と新聞記事のデータベースの充実。
電子書籍	○コロナ禍でもあり、電子書籍サービスを導入してほしい。将来は電子書籍がさらに普及すると思う。 ○子どもだけでもアクセスできる仕組みを作してほしい。
多言語資料	○在住外国人の方に利用してもらえるように多言語の本なども少しずつ揃えていってほしい。 ○国際都市の図書館というカタチで小松市の特色が出せると思う。
展示・配架	○蔵書検索が簡単で、すぐに見つけられるように。 ○開架式の部分を増やしてほしい。書庫に入っている本が多い。

D) 施設・設備

空間・雰囲気	○陽射しを取り入れ、明るく開放的で、ここちよい空間に。 ○広くて落ち着きがあり、小松産の木のぬくもりを感じられる空間に。 ○緑や外の景色が見え、館の外にも寝転がれる芝生やベンチなどの読書スペースがあるとよい。 ○子どもも大人も楽しめる空間、利用しやすい雰囲気づくりを。 ○館内に美術品を展示すると雰囲気がよくなる。
ユニバーサルデザイン	○障がいのある方が利用しやすいバリアフリーの環境。 ○外国籍の方も利用しやすい環境（多言語表記など）。
建築・デザイン	○行きたいという好奇心がわき、集客や観光にもつながるよう、外観のデザインにもこだわりを。 ○奇抜なデザイン性の面からの設計で予算や空間を無駄にしないように。 ○再生可能エネルギーを導入するとともに、学習できるように。
エリア・席の増設	○蔵書エリア、本棚と本棚の間隔を広くし、混雑しない動線づくり。 ○ゆっくりと読書・自習ができるようにスペース・座席数を増やしてほしい。 ○リモートワークにも対応し自習スペースを幅広い世代が利用しやすく。 ○若者も子育て世代も会議がしやすい場所、子どもを連れて打合せできるスペースに本があるとよい。 ○映画の上映やD V Dを閲覧できるスペースを。音読や朗読ができる部屋がほしい。 ○市民や団体が気軽に展示やイベントが開催できるように、ギャラリーや多目的ルームがあるとよい。
自習スペース	○学生をはじめ、幅広い世代が利用できるように、広くゆったりとした自習スペースの充実を。 ○気軽に集いながら勉強できる場と、静かに勉強できる場を区分。自習スペースに仕切りを。 ○オンライン予約ができると利便性が高まる。
会話を楽しめる空間	○会話を楽しめる空間がほしい。
カフェの併設	○くつろげる素敵なカフェなどを併設してほしい。
子どもスペース	○子ども用のスペースを増やしてほしい。少し遊べるスペースもあるとよい。 ○アメリカに多く存在するチルドレンズ・ミュージアムのように体験・参加型のブースもあるとよい。 ○くつろぎながら子どもと本を読めるように。絵本館の紹介など既存施設を使ってもらえる工夫を。
エリアの区分	○会話を楽しめる空間や飲食可能な空間と、静かに閲覧・学習できる空間を分けてほしい。
駐車場	○イベントなどの開催も考慮し、駐車スペース・台数を多く。 ○雨天時、本が濡れないように駐車場からの屋根付き通路を。 ○子ども連れや沢山の本を持つての移動は大変であり、駐車場をすぐ近くに設置。 ○ドライブスルーのような機能があると便利。 ○駐車料金は無料、若しくは時間割引があるとよい。

E) 運営

開館時間の延長	○仕事帰りの人や、居場所や学ぶ場所がない子どもたちのために夜間の開館時間を長く。
休館日の変更	○本館と南部図書館の休館日をずらしてほしい。（月曜日休館）
職員の専門性・待遇	○知りたいことが何でも相談でき、即対応してくれる司書の充実。 ○本やインターネットに詳しい職員の育成、配置。 ○司書を中心にボランティアがいて、そういう人を育てていく場所に。 ○図書館の核は人であり、心温まる場所であると人は集まる。意識・接遇のレベルアップを。
市民参画	○自分たちの事として考えると人が集まると思う。プロジェクト開始から自分たちで創り上げることが大切。 ○来館者数などの数字だけでなく、長い目で市民と一緒に創っていく図書館という姿勢、利用者一人一人の満足度を大事にしていく必要がある。
民間活力	○管理運営を民間に委託してはどうか。 ○カフェなどは民間がよいが、図書館部分は公的な機関で運営を。

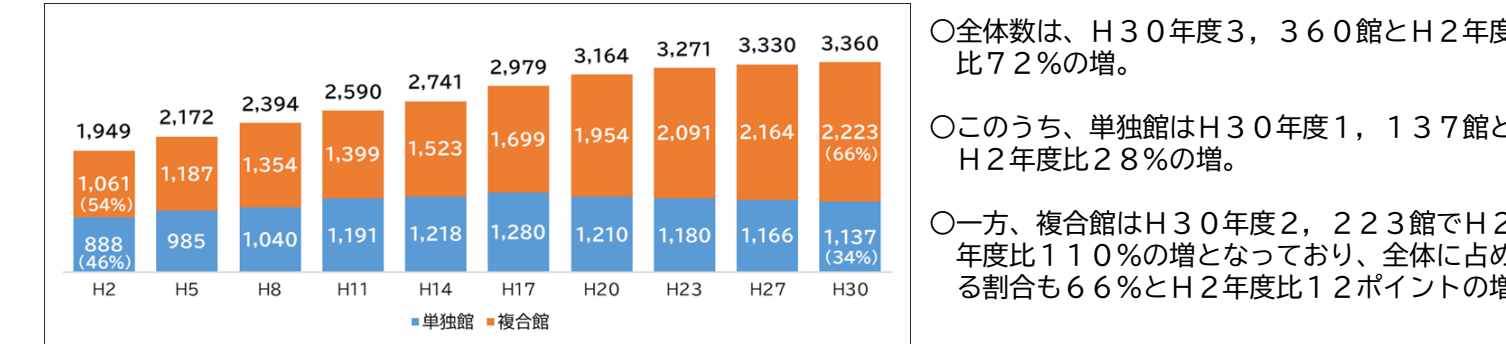
(1) 全国の図書館における単独館・複合館の状況

図書館の役割は、読書など情報のアクセス拠点とともに、住民が互いに学び合い、地域課題の解決や新たな価値を創出する場などへと拡がりを見せており、全国的に多面的な機能を有する図書館が増加しています。親和性が高い機能を包含することにより、相乗効果を生み出すことも期待されます。

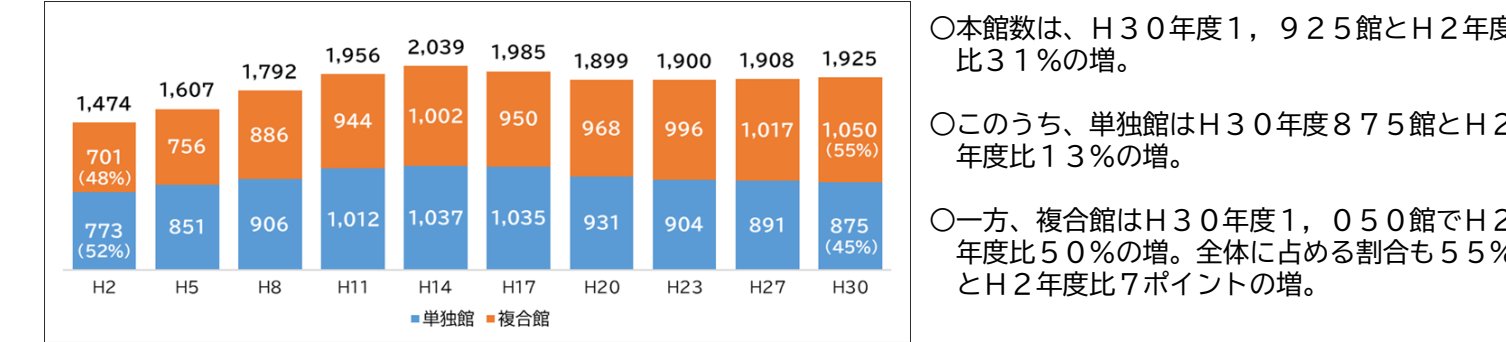
① 社会教育調査

文部科学省が3年毎に実施している社会教育調査において、「単独・複合別の図書館数」が記載されており、「図書館数」及び「複合型図書館数」ともに増加しており、複合型図書館の割合についても増加しています。

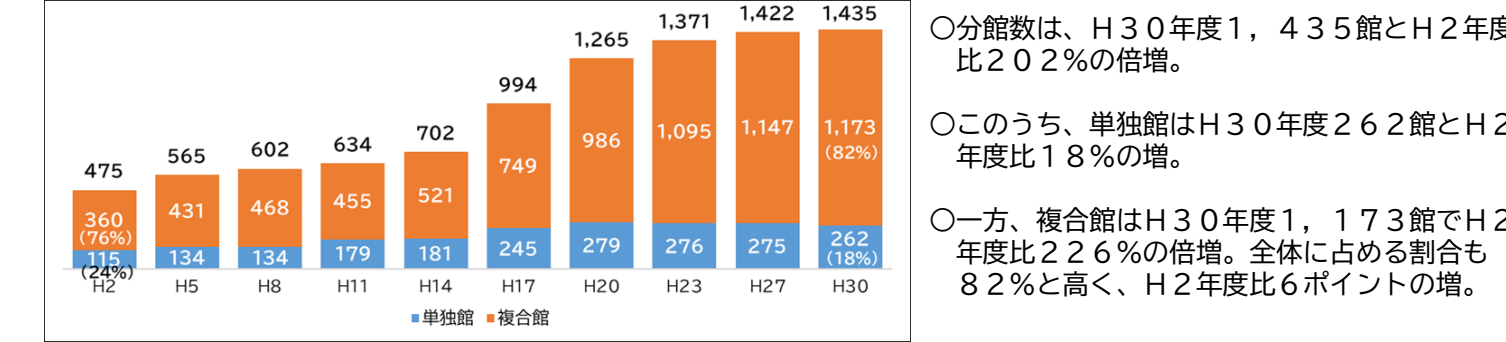
A) 単独・複合館数及び割合（本館＋分館）



B) 単独・複合館数及び割合（本館）

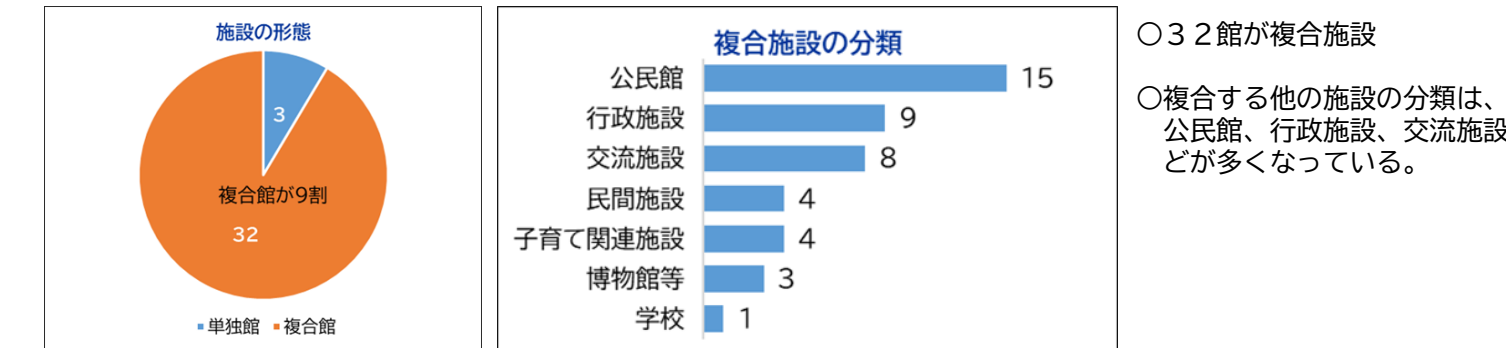


C) 単独・複合館数及び割合（分館）



① 社会教育調査

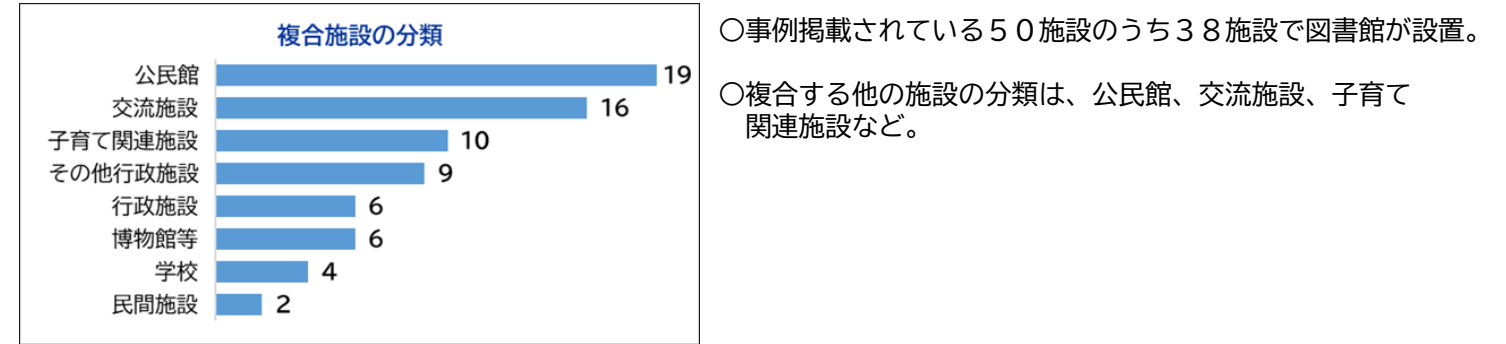
日本図書館協会が毎年発行している図書館統計において、2019年1月から12月までに新設、若しくは新築され、実際に開館した公共図書館のうち35館の概況が掲載されています。



(2) 全国の社会教育施設の複合化の事例

「インフラ長寿命化基本計画」に基づき、国や地方公共団体は、インフラの維持管理・更新等を着実に推進するための中期的な取組の方向性を定める「インフラ長寿命化計画（行動計画）」や、個別施設毎の対応方針を定める「個別施設毎の長寿命化計画（個別施設計画）」を策定することとされています。

文部科学省では、地方公共団体においては、各長寿命化計画策定の際には、社会教育施設と他の公共施設等との複合化・集約化について検討することも予想されるとして、社会教育施設の複合化・集約化等に関する事例を収集し、ホームページで紹介しています。



【施設の主な特徴・効果】（複数回答）

集約化・複合化による相乗効果の発揮（42施設）	○複数機能を融合することによる利用者の利便性の向上。 ○集客力の高い図書館機能と市民活動、ボランティアなどの中間支援機能、市民活動発表の場を複合化することで、新たな活動の拡がり、固定化していた利用者層の拡大。 ○共通テーマによる展示会の開催など共同事業、連動企画による集客力の向上、来館目的プラスαの出会いなどの効果。 ○運営面では、会議室等の共有化、連携による人員不足部分の相互補完など。
コミュニティの拠点づくりにぎわいづくり（40施設）	○各機能が融合することで、人と人が出会い、知識や経験を共有・交換できる。 ○生活文化・芸術・市民活動といった横断的な活動や交流が拡がることで、地域と連携した教育活動の推進や新たな仲間づくりの場となる。 ○多世代に向けた生涯学習や交流の場の提供が可能となることで、子どもと高齢者のふれあいの機会の創出・増加による子どもの社会性・コミュニケーション力の向上とともに、高齢者の生きがいにもつながる。 ○中心市街地の立地を生かし、周辺地域で行われる文化イベントや商店街との連携事業を行うことによる賑わいの創出、地域の活性化等によるエリア価値の向上。
住民の意見の取り入れ・反映（23施設）	○設計段階からの意見や要望の反映をはじめ、運営協議会での意見の収集。 ○毎年一定期間に全利用者へのアンケートの実施分析と住民提案への迅速な対応を行うことなどで、満足度の向上。 ○運営をサポートするボランティアの誕生や運営企画に関わることによる市民の達成感・充実感の醸成。
管理運営の工夫（18施設）	○設備・清掃・警備・受付等の一元化による人件費・委託料の節減 ○事務スペースの共有化や庶務機能の集約、利用するエネルギー源の選択の効率化による維持管理費の節減。 ○情報交換・連絡の場を設け、情報共有に努めることで一体的な利用の促進。
民間の力の活用（16施設）	○民間資金を活用したPFI方式により設計段階から運営事業者等が参画することで効果的・効率的な運営を考慮した施設づくり。 ○ボランティア育成・支援による地域ぐるみでの活動推進。 ○大学連携による地域教育力の向上、指定管理者制度導入による一体的な運営による効率化。

(1) 立地候補エリアの位置

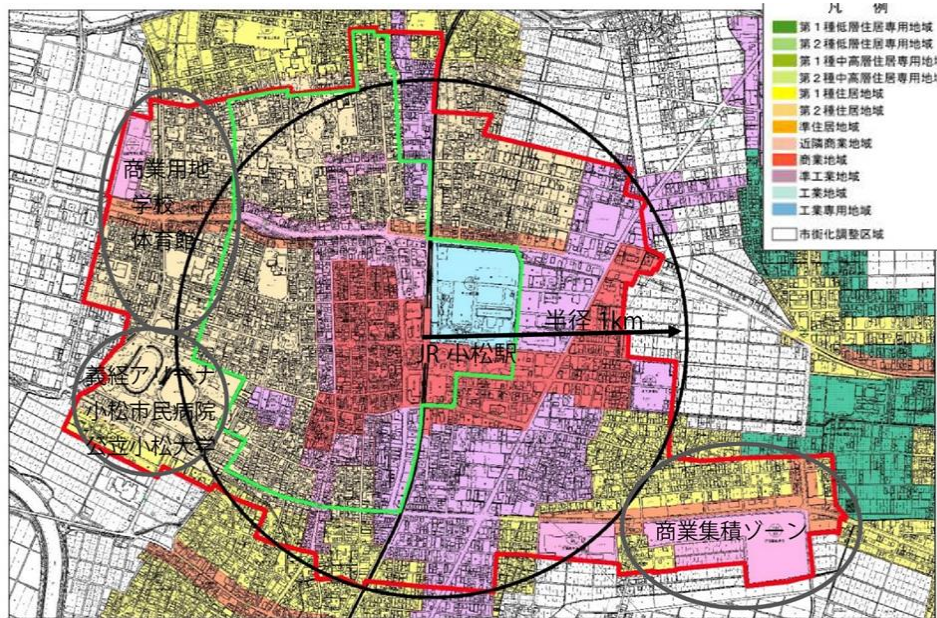
小松市都市計画マスタープラン及び小松市立地適正化計画では、「都市機能誘導区域」として、中心拠点（小松駅地区）と地域拠点（栗津駅地区）の2地区を設定しています。

各区域は、誰もがアクセスできる場所としての観点も踏まえ、以下のとおり設定されています。

① 都市機能誘導区域（小松駅地区）

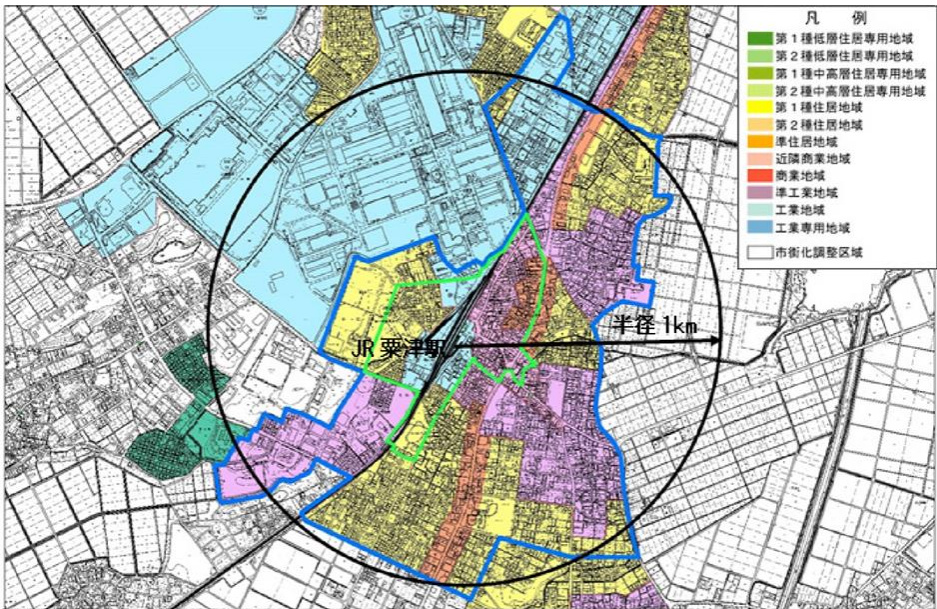
中心拠点（小松駅地区）は、都市全体を対象とする規模の大きな医療、教育・文化、福祉、商業等の施設の集積を図る区域で、今後とも様々な施設を区域内に誘導し、集約することで各種住民サービスの効率的な提供を図ることとしています。

当区域内には、現小松市立図書館が立地する芦城公園や、ＪＲ小松駅、小松市民病院や公立小松大学末広キャンパス、小松運動公園、商業集積ゾーンなどのエリアがあります。



② 都市機能誘導区域（栗津駅地区）

地域拠点（粟津駅地区）は、地域の核として医療、教育・文化、福祉、商業等の施設の集積を図る区域で、今後とも施設を区域内に誘導し、集約することで各種住民サービスの効率的な提供を図ることとしています。



③ 市民の意見や公共施設マネジメントの観点から

小松市内には、市内外から多くの方が利用されている施設があります。市民アンケートや意見交換会などでの意見や、図書館と他の施設との連携や機能の集約化・複合化など公共施設のマネジメントの観点からの検討も重要です。

「木場湯公園周辺」や「こまつドーム周辺」、「小松市民センター周辺」は、交流機能やコミュニティの拠点となる機能があることから、図書館の立地を検討する上での候補エリアとして考えられます。

(2) 立地候補エリアの概要

① 芦城公園周辺

現在の小松市立図書館（本館）が立地する芦城公園及びその周辺は、小松市公会堂や小松市立博物館をはじめ、空ととも絵本館、美術館、小松市役所などが集積する文教ゾーンが形成されています。



② 小松駅周辺

駅東地区は、コマツウェイ総合研修センタやこまつの杜、サイエンスヒルズこまつなど科学やものづくりをテーマに、駅西地区は、こまつ芸術劇場うらら、曳山交流館などの伝統芸能・文化の振興をテーマに、駅南には公立小松大学が入る複合ビルなど、ひとづくりの拠点エリアとなっています。

2024年春には北陸新幹線小松駅開業も予定され、高架下には観光交流センターの整備や北陸電力複合ビルの建設も計画されており、その拠点性はさらに向上することが期待されます。



③ 小松運動公園周辺

小松運動公園周辺は、スポーツ施設が集積し、競技や市民の体力向上の拠点エリアとなっています。小松市民病院や小松市すこやかセンター、保健医療学部がある公立小松大学末広キャンパスなども立地し、健康ゾーンが形成されています。



④ 粟津駅周辺

粟津駅周辺は、基幹産業等の生産拠点の集積や宅地開発、公立小松大学粟津キャンパスの立地等により市南部の玄関口としての機能が高まっています。駅利用者も増加しており、利便性の向上と安全性の確保のため、粟津駅における東西連絡通路や駅西広場等の整備が計画されています。



⑤ 木場潟周辺

木場潟公園は、中央園地・北園地・西園地・南園地の特色のある4つの園地があり、ウォーキングやレジャー、草木や野鳥の観察、スポーツなどで多くの人が訪れる交流エリアとなっています。木場潟周辺は白山眺望景観や田園風景等の魅力ある景観づくりが推進され、うるおいある豊かな環境形成が図られています。



⑥ こまつドーム周辺

こまつドームは、スポーツ、レクリエーション、展示会、各種式典、イベント等に利用可能な多用途のアリーナのほか、生涯学習センター、屋外グラウンドを併設した複合施設で、スポーツや文化行事をはじめ、市民の交流と生涯学習の推進の拠点となっています。今後の施設機能の維持・更新やさらなる利用促進が課題とされています。



⑦ 小松市民センター周辺

小松市民センターは、大ホールや小ホールの集会施設、セミナールームなどのコミュニティ供用施設、高齢者の生きがいづくりを推進する老人福祉施設、児童センター、屋外運動場などからなる複合施設で、子どもからシニアの交流とコミュニティづくりの拠点となっています。北部地区の拠点として、今後、さらなる機能の充実・利用促進が期待されています。



(3) 立地候補地選定の考え方について

① 考え方

- 未来型図書館のビジョン・基本方針を示す「基本構想」の中で立地候補地の選定をめざします。
- 未来型図書館の「機能やサービス」、民間活力・市民参加による「事業手法・運営体制」の検討と議論を併行。

② 選定にあたっての観点

A) 新たな活気とにぎわいの創出、市民生活の利便性の向上の観点

医療、教育・文化、福祉、商業等の施設の集積を図る区域で、今後とも様々な施設を区域内に誘導し、集約することで各種住民サービスの効率的な提供を図る「都市機能誘導エリア」として、「小松駅地区」「栗津駅地区」の2つのエリアが設定されている。

B) 周辺エリアのコンセプトや複合機能（融合機能）との親和性の観点

- 各エリアのテーマ性（教育・文化、科学・ものづくり、自然・環境・憩い）などとの親和性
- 図書館と親和性が高く、相乗効果が期待できる複合機能（融合機能）

C) 事業手法・財政負担の観点

- 民間事業者の参画の可能性（資金・ノウハウの活用）
- 事業用地確保の容易性、整備財源の活用の可能性

D) 公共施設マネジメント推進の観点

E) 市全域の図書館サービスのバランスの観点

③ 検討のスケジュール

- 第3回基本構想策定委員会（10月下旬予定）で、立地候補地の考え方、候補地の概要、期待される効果、検討が必要な課題等について議論を開始。
- 市民ワークショップにおいても対話を踏まえて、立地候補地を整理し、第4回、第5回の基本構想策定委員会を通じて議論を深め、委員会として意見を集約する。